

八王子消化器病院ニュース

第45号

医療法人財団 中山会

八王子消化器病院

消化器病専門医療機関・東京女子医大関連病院

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町 177-3

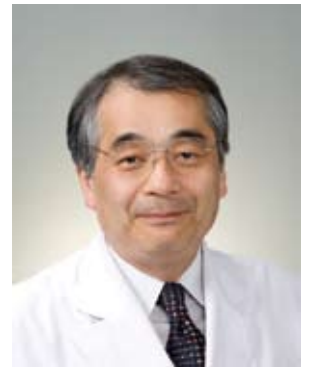
TEL: 042-626-5111

www.八王子消化器病院.com

制作 (株) 教育広報社

おおるり

HACHIOJI DIGESTIVE DISEASE HOSPITAL NEWS



新年のご挨拶

八王子消化器病院 理事長 鈴木 衛

新年明けましておめでとうございます。病院職員を代表してご挨拶申し上げます。昨年は、広島県の土砂災害、御嶽山の噴火、長野県北部の地震など日本全体が自然災害に見舞われた1年でありましたが、幸い年明けには大きな事件・事故もなく穏やかに新年を迎えることができました。年頭にあたり当院では、患者様とご家族の皆様から信頼され、安心して検査・治療を受けていただける病院たるべく全職員が気持ちを新たに医療活動に励むことを誓いました。

さて、昨今の医療を取り巻く情勢に目を向けますと先端技術を取り入れた高度先進医療の導入によって、これまで診断・治療が困難であった疾患に対しても治療の道が開かれたとの報告がなされています。また、皆様ご存知のとおり昨年9月には先端医療センター病院においてiPS細胞から作られた網膜の細胞を眼の難病である「加齢黄斑変性」の患者に移植するという世界初の手術が行われたとの発表がありました。これらの医療技術の進歩は、患者様そして我々医療従事者にとっても大変喜ばしいことでもあります。

一方、安全性を何よりも優先すべき医療現場において、不十分な診断と経験不足な

医師による医療行為を原因として患者様にとってあつてはならない不幸な結果を招いてしまったとの報道がなされたことは、皆様も記憶に新しいことと思います。同事が発生の経緯に関しては、今後の調査報告を待つところではありますが、言うまでもなく医療機関には、全身麻酔下で実施する手術から外来診療における投薬治療に至るまで患者様に安全で安心な医療を提供することが求められています。そして、その実現のためには、大別して以下の2つのことが不可欠となります。

1つは、医療従事者各々が最大限の注意を払い業務に臨むことはもとより医師を中心とした多職種で構成される医療チーム、ひいては医療機関全体として安全で安心な医療を提供するうえで十分なる体制が整備されていることです。当院では、組織全体が適正に管理運営されているか、また提供される医療サービスが患者様にとって適切な水準に達しているかを再確認するため、昨年8月に第三者評価機関である「日本医療機能評価機構」による病院機能評価を受審いたしました。同評価は5年毎に更新が行われ、当院もこれまでに平成16年、平成21年と過去2回受審し、いずれも認定を受け

ております。同審査には「患者中心の医療の推進」「良質な医療の実践」「理念達成に向けた組織運営」の評価対象領域があり審査項目は84項目に及びますが、今回はその多くの項目で高い評価を得て無事に認定を受けることができました。

2つ目は、医療従事者各人が、その職責の重要性を認識し「医の倫理」に基づいて医療行為を行うことです。「医の倫理」につきましては、関係諸団体が指針や綱領を定めています。当院では、それらを踏まえて臨床における倫理指針を定め、インフォームド・コンセント(説明と同意)の徹底や患者様の生活の質(QOL: Quality of Life)を尊重した医療の提供に努めております。更に高齢者に対する医療や終末期医療等における倫理的な課題に対する判断基準についても規定すべく、倫理委員会を定期的開催し、その内容を全職員に周知しております。

世界一の長寿国となった我が国の高齢者医療福祉制度を堅持するという目的で昨年4月に消費増税が行われました。また、平成29年4月には再増税も予定されています。現在、保険診療における消費税は患者様ではなく、医療機関が負担することになっていきます。一方、医療機関の収益を左右する診療報酬は、増大する国民医療費を抑制するために過去数回に亘り実質的にマイナス改定となっており、医療機関の経営に大きな影を落としています。このような厳しい医療環境ではありますが、本年も全職員が一丸となって「患者様のための医療」の提供に尽力して参ります。

もっと知りたい!

身体 治療 のコト

消化器癌治療と化学療法

東京女子医科大学 化学療法・緩和ケア科 准教授
八王子消化器病院 化学療法チーム

川上 和之

1. 化学療法とは

消化器癌に対する治療の基本は手術による切除ですが、手術によって癌が取りきれない場合には抗癌剤による治療を行います。このような薬剤による全身的な癌治療を一般に化学療法と呼んでいます。化学療法の起源は第一次世界大戦中に開発された化学兵器のマスタードガスとされています。ドイツ軍に爆撃されたアメリカの輸送船からマスタードガスが漏れ、暴露した多数の兵士が白血球減少により死亡したことがきっかけで、癌治療への応用が研究され、マスタードガスの安全性を高めた薬剤が血液の癌に使用されました。このように、化学兵器のような毒をもって癌治療を行うのが化学療法の起源であるため、様々な副作用を伴う治療であることには必然性があります。しかし、抗癌剤の開発に平行して副作用対策も進歩し、現在では重篤な副作用をほとんど生じさせないで安全に化学療法を行えるまでになっています。

2. 化学療法の実際

化学療法で使用される抗癌剤は点滴か内服薬のいずれか、あるいは両方の組み合わせになります。1種類の抗癌剤で治

療することもあります。多くの場合、複数の抗癌剤を組み合わせる治療を行います。その際、組み合わせる薬剤やその投与量、投与スケジュールは医師が自由に決める訳ではなく、レジメンと呼ばれる一定の決まり事に沿って行います。当院では厳重な院内審査によって科学的に妥当性のあるレジメンのみを採用しています。数百人規模の臨床試験により癌に対する効果と安全性が証明されたレジメンだけを採用していますので、安心して治療を受けていただけると思います。通常は入院で化学療法を始めますが、重篤な副作用を認めなければ以降の治療は外来通院で行うのが一般的です。仕事をしながら化学療法を受けている方も数多くおられます。

3. 化学療法に必要な処置

化学療法は点滴・内服薬による治療ですので、化学療法の適応を判断するための検査（採血、レントゲン、CTなど）以外には通常特別な処置は必要ありません。化学療法を行う直前には再度、採血検査で確認して治療を開始することになります。唯一、消化器癌に対して5-FUという抗癌剤の持続点滴を行う場合に

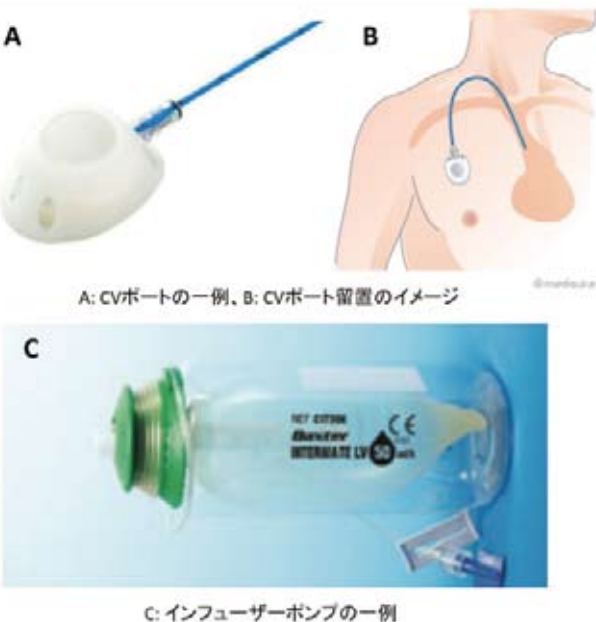
だけCVポートと呼ばれる器具の皮下留置が必要になります(図A・B)。血管内にカテーテルを留置してCVポートにつないで皮下留置することで自宅での持続点滴が可能になります。抗癌剤は通常の点滴とは異なり、自動的に薬が注入される風船のような器具(インフューザーポンプ)に入れて持ち帰っていただきます(図C)。

4. 安全な化学療法を受けるために

前述のレジメンというプロトコル(治療手順)に従って治療を行うことで安全性はかなり確保できるのですが、もう一つ化学療法で重要なことは患者さん自身が常に副作用の予防に注意を払っていた

5. 最後に

消化器癌に対する化学療法の概要を説明させていただきましたが、少し怖い治療法などの印象を持たれた方もおいかといます。化学療法は一般的な薬の治療に比べれば危険の多い治療法と言えますが、近年副作用対策も飛躍的に発展し、化学療法の内容と予測される副作用をよく理解して患者さん自身も積極的に治療に参加する気持ちを持てば安全に行える治療法です。化学療法が必要と診断された場合には闇雲に恐れずに、治療内容を医師から詳しく聞くところから始められれば良いかと思



A: CVポートの一例、B: CVポート留置のイメージ

C: インフューザーポンプの一例

います。明かせていただきましたが、少し怖い治療法などの印象を持たれた方もおいかといます。化学療法は一般的な薬の治療に比べれば危険の多い治療法と言えますが、近年副作用対策も飛躍的に発展し、化学療法の内容と予測される副作用をよく理解して患者さん自身も積極的に治療に参加する気持ちを持てば安全に行える治療法です。化学療法が必要と診断された場合には闇雲に恐れずに、治療内容を医師から詳しく聞くところから始められれば良いかと思

ロビーコンサートと 八王子の芸妓

八王子市万町在住

森田 忠男さん



私が当病院とご縁を持つこと

ができたのは、八王子消化器病院友の会初代会長の青木純一氏から、当時の病院長・現理事長の鈴木衛先生と当時の事務長・現理事の久野久夫氏をご紹介いただいたことにはじまります。その契機となったのは、お三方ともにアルコールを好まれるタイプでしたので、某会合後の二次会で芸妓衆とともに元待合「花の家」の席へご一緒したことでした。

その後は、胃腸の定期検査をはじめ、健康診断等で先生方にお世話になっておりますが、そのお陰で胃腸に関して、大病に至らず過ごすことができています。予防検診に恵まれていると申しますか、ありがたいことで、常々感謝をしているところです。そうしたことで、平成15年11月26日に開催されました「友の会」の設立総会にも出席させていただき、今日に及んで

おります。

*ロビーコンサートのはじまり

ロビーコンサートのはじまりは、平成14年11月「元理事長の羽生富士夫先生が、病院に寄贈されたグランドピアノを有効活用するために開催された。」とお聞きしております。その後は、ほぼ2か月ごとに開催されるという定期的なコンサートとなりまして、12年後の昨年11月28日のロビーコンサートでは第73回を数えております。

その中で、毎年新春を寿ぐ1月だけは、八王子芸妓衆による和楽器の演奏と踊りで、季節の「初春」「梅は咲いたか」「梅と松とや」など12〜13曲が披露されています。観客は、毎年入口のロビーに固定された椅子席と臨時の椅子席では間に合わず、立ち見の人が多く出るほどの人気です。

*花街(かがい)の 伝統芸を守る芸妓衆

かつて、八王子芸妓衆の盛衰は、地場産業としての織物業界の好不況と重なっていったものですが、今日ではそのようなことはございません。それだけに芸妓衆は、お座敷の中で仕事をす

るだけでなく、花街の伝統文化を継承し、広めるためにも各地域のさまざまなイベント企画に積極的に参加し、地域に溶け込む必要性が生じたと申せましよう。最近の事例を見ますと昨年の3月、初めて開催された芸妓衆念願の「八王子をどり」について、読売新聞は「八王子芸妓衆、華やか」「舞踊公演、初の試み」と題した記事を大きく取り上げていました。その記事の中で、八王子には花街の文化を継承するための基盤づくりであるとか、京都・祇園甲部の「都をどり」、東京・新橋の「東をどり」、神楽坂の「神楽坂をどり」などのような花街には欠かせない芸者の晴れ舞台がなく、独自の興業は開かれたことがなかったものの、八王子三業組合(見番(けんぱん))と芸妓衆が中心となり、昼と夜の部合わせて1600人の観客を集めるとともにあてやかな舞を披露した、

と報じていました。

同年4月の朝日新聞では、「八王子の芸者、街へ山へ」「お座敷飛び出し、地域に溶け込む」という大見出しで、「高尾山若葉まつり」への参加記事が掲載されました。

また、8月には、八王子市主催「八王子まつり」への積極的な参加、さらには青梅市・御岳山からのお声がかりで、外国人観光客を呼び寄せるためのイベントに出演するという状況で、まさにお座敷を飛び出し、花街の伝統文化を継承するために東奔西走するという活躍ぶりです。

八王子消化器病院ロビーコンサートへの出演は、そうした活動の一環であると申せましょう。

なお、こうした芸妓衆の活躍の陰には、平成11年6月に発足した「八王子黒塀に親しむ会」の存在と支援があることも忘れることが出来なないように思われます。それまでの芸妓衆は11

名程度でしたが、昨今では若手が加わって17名程度に増加するとともに、平均年齢の若返りが図られて、活況を呈しています。



←お座敷にて

→八王子をどり



臨床検査科のご紹介

臨床検査科 科長 江本 勝己

臨床検査科は、開院以来30余年の間に5回にわたる増築、改築、新規移転の変遷を経て今日に至っています。現在の臨床検査室は、平成21年3月に1階から地階に移転しました。移転に際しては、部屋全体を淡いピンクを基調に配色し、視覚的に温かく明るく清潔な雰囲気にするとともに、3人の技師が全ての検査情報を共有できるように検査室全体をIT化し、機能的かつ快適な環境の中で仕事ができる自慢の検査室になっています。

当科では、検体検査と輸血業務を中心に行っています。98床の病院としてはハイレベルな電子カルテと一体になった検査オーダーリングシステムを導入し、検査依頼および報告は、完全にペーパーレス化されています。業務内容としては、生化学・血算・尿一般・免疫(感染症)・輸血の緊急検査は院内で実施し、緊急度の低い通常検査は外部の検査センターに委託しています。当科の女性技師2名は超音波検査士の資格も取得しており、交代で生理学・超音波検査科に随時出向していることから、実質的には2名の検査技師で1日120〜160検体を対応し、検査データは30分で報告しています。

医師への検査データ報告に際しては正確性・迅速性が求められることから、外部機関はもとより院内での精度管理を逐次実施しています。加えて、医療技術の進歩にも対応すべく新しい検査方法も積極的に取り入れており、開院当初には当時、保険適用されていなかった膵臓疾患の診断に有効なP-AMYの測定を逸

早く取り入れられたり、最近ではヘリコバクター・ピロリ感染症の診断にラテックス凝集法という検査方法を導入し、当日(約30分)に結果が判るようにしました。

以下、近年、皆様の関心の高いヘリコバクター・ピロリ菌(ピロリ菌)の検査について触れたいと思います。ピロリ菌は、胃の粘膜に付着し消化不良、食欲不振、胃もたれ等の諸症状を引き起こすと言われ、WHO(世界保健機構)は「確実な発がん因子」と認定しています。

検査方法は、大別して以下の2分類6種類があります。

1. 内視鏡を使う検査法

内視鏡で胃・十二指腸から検体(組織)を採取し、以下の①②③いずれかの方法を用いてピロリ菌の有無を判定します。この方法では、同時に潰瘍や癌についても検査できますが、採取した組織中に偶然ピロリ菌がいなかった場合や慢性胃炎でピロリ菌量が減少している場合は、偽陰性になってしまいます。

①迅速ウレアーゼ試験

ピロリ菌が作り出すウレアーゼという酵素の量を調べて判定します。(特殊な測定器が必要のため当院では実施していません)

②鏡検法

採取した組織を染色して顕微鏡で観察することににより判定します。

③培養法

採取した組織を培養し、ピロリ菌が増えるかどうかを調べて判定しますが、判定までに1週間程度を要します。

2. 内視鏡を使わない検査法

検体として呼吸(吐き出された息)や血液、尿・便を用いるため、内視鏡検査と異なり採

取部位により判定結果が左右されることはありません。一方、食事による影響や抗体量による偽陰性や除菌後4週間以内は偽陽性になる等のデメリットがあります。

④尿素呼吸試験

尿素から二酸化炭素を作るというピロリ菌の性質を活かした検査法で、検査用の薬を服用し一定時間(20分間)経過後に呼吸中の二酸化炭素濃度を調べて判定します。(食事や除菌された場合は、検査ができません)

⑤血清・尿中抗体検査

血液や尿のピロリ菌に対する抗体の有無を調べて判定します。除菌治療後もしばらくの間、抗体が体内に残るため除菌前後の定量値が6ヵ月経過後に半減した場合には除菌成功と判定します。(尿中抗体検査は、抗体の排出量が少なく判定しづらいため当院では実施していません)

⑥便中抗原検査

便を採取してピロリ菌抗原の有無を調べて判定します。除菌治療後も死菌が検出される可能性があるため、判定には除菌用の薬を服用後4週間以上開ける必要があります。

以上のように各検査法にはメリット、デメリットがあることから、偽陰性が疑われる場合には、2つの方法を組み合わせる検査を行います。

なお、ヘリコバクター・ピロリ菌の除菌療法については、本誌第43号をご覧ください。

今後も当科では各検査法の特徴を活かし、医師の診断に際して精度の高い検査データ報告を行うことを通して、患者様に質の高い医療を提供できるよう専門知識・技術の向上に努めてまいります。

想うこと



昨年は2月の首都圏豪雪に泣かされ、8月の超大型台風には驚かされ引続く広島土砂災害を嘆き、9月の御嶽山の噴火に畏怖の念を抱くと、年間を通して大きな自然災害が群発しました。いずれも各地に甚大な被害をもたらし、改めて日本が災害列島の真上に位置していることを痛感させられました。

人智の及ばない自然災害は防ぎ得ないものとしても、その被害を最小限に留めるのは人間の英知と周到な備えであるということ肝に命じなければなりません。「備えあれば憂いなし」と言いますが、心配性の私は「憂いあれば備えあり」で準備のし過ぎはないと思っております。

理事 久野久夫